

## 2022年 電波伝搬実験概要

de JA1RIZ

コロナ情勢の影響を受け、空白期間2年の今年の移動各局は、1、φエリアから移動ポイント:10 (コントロール局除く)の地域から参加をいただきました。

参加局は固定からのワッチ局を含め、嬉しい15局になりました。

混信・ノイズの影響を強く受けたポイントもあった様ですが、全般的には良好な状態ではなかったかと思えます。Esの影響もなかったかと思われま。

天候は、各地とも晴れ、気温:22~32°Cであったとのこと。

コントロール局をはじめ各局たいへんお疲れ様でした。

### (1) 各局の位置関係

移動の各局の位置関係は、資料「②-2 2022年電波伝搬実験交信結果表 の位置関係エリア図」の通りです。

JA1WOB/1 コントロール局が最も北の地点であり、JM1LZT/1 局が最南端、JA8SLQ/1 局が最東端、JR2CTR/φ局が最西端に位置していました。あとの、各局はこのアングル内に入っていたこととなります。JM1LZT/千葉鴨川市は緯度ではΦエリアの御嶽山より南になっているとは、意外と思われることでしょう。

### (2) 最長交信距離

最も遠距離交信だったのは、両局ともモバイルアンテナ設備の交信としては、JK1GBE/1 (東京都西多摩郡・風張峠付近) ⇔ JM1LZT/1 (千葉県富津市・桜井(鹿野山))でした。共に RS=59 で交信成立しました。

伝搬距離は 98.84Km でした。単純計算の見通し距離 =  $4.12(\sqrt{1148} + \sqrt{310}) = 212.1\text{km}$  であり、ほぼ見通しの状態だったのでしょう。

僅差で JK1GBE/1 ⇔ JA8SLQ/1 (千葉県木更津市・矢那地区) 93.99km でした。

モバイルアンテナでは、最も遠距離に位置した JR2CTR/φ ⇔ JM1LZT/1 (233.1km) は交信できませんでしたが、1ループと4エレ HB9CV の組み合わせでは交信できました。

(RS:51/51) [単純見通し距離 =  $4.12(\sqrt{2200} + \sqrt{310}) = 265.8\text{km}$ ]

今回について、最長伝搬距離の200 km 台がなかったのは、各局のロケーション及び伝搬路(伝搬途中の山岳遮へい等)による影響が大きかったためと考えられます。次回は、モビホで JR2CTR 局

との交信成立を期待したいものです。

### (3) 最多ポイント交信

9P/JE1VGJ/1, JMILZT/1, 8P/JK1GBE/1

全ポイント制覇まであと一歩だったのは、VGJ 局、LZT 局でした。

GBE 局は SXA 局の受信不調がなければ 9P だったでしょう。いずれも、FB なロケーションを選定した結果でしょう。

注目は、JHILTR 局の河川敷という、低地でも電波伝搬が良いといわれる場所からの運用でした。比較的近距离 41.4~48.2km で交信成立しませんでした。お互いに標高が低く単純見越し距離が取れていないか、ギリギリの関係にあり、伝搬路途中の建築物・地形の遮へいが強かった為ではないかと考えられます。一方、相手局の標高が高かった各局とは交信成立していました。

(実際の離隔距離/単純見越し距離)

- ・QSO 不可=JA8SLQ/1(41.4km/37.2km),JA1FYQ(41.6km/57.7km),JA1VWB(48.2km/59.1km)
  - ・QSO 成立=JMILZT(52.2km/78.4km),JE1VGJ(57.7km/91.9km),JK1GBE(72.5km/145.4km)
- コントロール局は固定 ANT の威力もあり、さすがに全 10 ポイントをカバーしました。

### (4) その他

- ① 実験タイムは、おおむね統制は取れていたと思います。本年は、Es の影響はほとんど無かった様です。
- ② 固定局からのレポートは 2 局からありました。  
移動局の電波は固定局に対してどこまで飛んでいるのか、又、自局の受信エリアの確認のためにも、参加局自身のお役に立つ部分あると思いますので、固定からも大いにレポートしても下さい。
- ③ 資料「③—1 各局との距離表」を添付していますので、各局との相互関係を確認してみてください。

最後に、移動の各局及びその他参加してレポート送付頂きました各局、メインコントロール局、そして、遠地への移動などご協力頂いた各局各位に感謝申し上げます。

(実験結果は、別紙ご参照下さい。) 2022/JUN/30

以上